

令和6年度 第3回 北浜中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年12月12日（木） 13:30 から 15:30
- 2 開催場所 北浜中学校 会議室
- 3 出席委員 古川員巳、柴田義久、大村 仁、大岡成光
齋藤千朝、波多信広、原崎佳久、古谷一平
- 4 欠席委員 藤本正俊
- 5 学 校 水谷裕士（教頭）、鈴木 亮（CS 担当）鈴木敬子（CSディレクター）
山下憲一、仲村篤志
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 鈴木敬子
- 8 議長の選出
司会から議長の選出について意見を求めたところ、会長から柴田委員が推薦され、全員異議なくこれを承認した。
- 9 協議事項
 - （1）全国学力調査質問紙の結果及び考察
 - （2）学校生活の様子（生徒指導より）
 - （3）学校支援ボランティア取組についての振り返り
- 10 会議記録
司会の柴田委員から、委員総数9名のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）全国学力調査質問紙の結果及び考察（鈴木亮主幹教諭）

「本校の特徴」と考えられる結果から、本校のグランドデザインの柱となる「連携推進」「授業改善」「集団改善」に分類しまとめたものである。

本校はPC・タブレットの活用が進んでいるため、市内の代表として「リーディングDX事業指定校」になった。

・文部科学省指定のギガスクール活動の事業。調べ学習より、クラウドを通して他の生徒の考えも共有しできるだけ主体的に、効果的な学習を自分の力でできるようにすることが目標。（仲村教諭）

・教員もタブレットを通してのやり取りに慣れてきている。（亮）

・1月の公開授業は先生対象のようだが他の人はどうか？（柴田委員）
→当日は市内小中の教員対象だが、CS委員の皆さんはいつでも参観してください。（教頭）

・私立高校に行くことがあるが、公立高校よりICTが進んでいるように

感じる。北浜中で活用している授業を見たいと思う。(大村委員)

→日常的に使っている。チェックが簡単にできる。成果として授業中のコミュニケーションができています。他者の考えを知ることは人間関係にも良い影響があると感じています。(仲村教諭)

・運営協議会で検討してほしいことは何でしょうか。(柴田委員)

→本年度の取組以外に、中学生が関わることがあるか。(亮)

・太鼓部や吹奏楽部に地域の祭りに参加してもらえるか(大村委員)

→地区や団体によっては以前から依頼されて行っているの、学校に直接連絡をしてください。(教頭)

・太鼓部のOBが後輩に教えている。祭りに中高生が関わってほしい。防災も含め積極的に考えたい。(柴田委員)

・地域の祭りに、その地域の太鼓部に入っている生徒をメインにして演奏してもらうのはどうか。(波多委員)

・祭りに参加する若連に入る人も少なくなっているので、若い人たちに近づきたい。地元の会合で話したい。(大村委員)

(2) 学校生活の様子(生徒指導 山下教諭)

本校の心の教室について

全国的に不登校児童生徒が増えている、浜松市では名称を「まなびの教室」としているので本校でも来年度から「校内まなびの教室」としたい。不登校の生徒が、まずは「まなびの教室」に登校できるようアプローチ、所属する学年学級に復帰することを目標に、自習を中心に規則正しい生活の習慣化を図っていく。その活動において今後CSの力を借りたい。

・小学校では、元先生がボランティアとして入っていたりするがどうか？学校に居場所があるのは良いと思った。(斎藤委員)

→思春期の中学生なので入れ替わりに多くの人が入るのは難しい。本人たちは居場所を望んでいるので、資格より関わりあい方が重要。(山下教諭)

・利用願を出すのか？(波多委員)

→保護・生徒の利用希望から判断して決定する。(山下教諭)

・校内にそういった教室があるのは安心。(斎藤委員)

→職員は、やれることはやっている。丁寧に対応している。(教頭)

・とにかく学校に楽しく登校できることが一番。(古川委員)

・支援したいので要望してほしい。(柴田委員)

・クラスの生徒の関わり方はどうか？(波多委員)

→給食時や部活動等かわりを持っている。(山下教諭)

・小学校では読み聞かせボランティアがいるが、どうか？(斎藤委員)

→中学生向けに良い内容があれば。(山下教諭)

・弱い子に対するサポートで、担任の思いはあると思うが、無理強いはしないでほしい。(大岡委員)

→外国籍の生徒もとても頑張っているが、最近登校率が落ちていることが課題である。(山下教諭)

(3) 学校支援ボランティア取組についての振り返り

今年は、まず一歩ということで話し合い、支援の形づくりをしていきたい。PTA ボランティアと支援ボランティアを混同してしまうので、はっきり分けたい。PTA ボランティアは全会員対象、支援ボランティアは地域等も含む登録者とする。つながりを作る具体的なことについて、協議会での意見を聞きたいと校長から話があった。(原崎委員)

・方向性はよい。ただ、文化発表会のボランティアは多いが、それほどではないものもある。多すぎるときにどうするか、少ない時に集められるかが課題である。(大村委員)

・学校として地域との接点をとるのが難しい。(原崎委員)

・対象となる人数が減ってきている現状がある。(大村委員)

・対象者の絞り込み、保護者だけではもたない。(柴田委員)

・地域とのかかわり。(原崎委員)

・小学校のボランティアを見ていると、好きな人は子どもが卒業しても続けている。(古谷委員)

・「北中応援隊」を登録制にしたらどうか？組織を強化していくべきだと考える。(古川委員)

・さくら連絡網の使い方も PTA 向けと応援隊向けが混同しがちなので、今後考えなければと思う。(原崎委員)

・「北中応援隊」については、CS がまとめ役ではないか。今ある役割をはっきりさせる。誰がまとめるか軸をしっかりとらせることが大事。(波多委員)

・ボランティアを誰が募集するのか。PTA？CS？(大村委員)

→応援隊は、支援 CD が中心となる。(原崎委員)

・学校では誰がするのか。すり合わせをしたい。(柴田委員)

・地域を含めるためには CS 発の「応援隊」としたい。(原崎委員)

・支援 CD 研修会では、他校も同じ課題を持っていた。(古谷委員)

・PTA とは別枠で、組織化が必要。指示者がいないと混乱する。(大村委員)

・PTA 活動を見直して、不足する場合にボランティアを募ったらどうか。声を掛け合って助け合いたい。(古川委員)

・まずは、やってみようと始めている。(原崎委員)

・職場体験は浜北地区中心の体験先となり、大変良かった。(大岡委員)

・PTA とは違う応援隊の形を整えていきたい。(原崎委員)

11 その他報告事項等

- ・報告 10月17日（木）虹色文化発表会、11月14日（金）体育祭
- ・今後の予定

第4回 令和7年 2月13日（木）13：30から15：00